

海・山・平野  
手をとり合って

# ～3.11でつながる縁～

2011年3月11日に発生した東日本大震災。大崎市では、



震災年の春、鳴子温泉に二次避難されている沿岸部の方々に、ぜひホテルや旅館の中だけではなく外に出で楽しんでいた大崎いどい「菜の花フェスティバル」を企画しました。

2回目となる2012年

年に春も、バスを手配して沿岸部の方をご招待。春は鳴子温泉の菜の花を見に来ていたとき、夏は私たちが沿岸部のイベントに行き、また秋は鳴子峡の紅葉を見に来ていたく。そんな海と山の心の絆として、ずっとと交流を続けていかなければいけないですね。

千田清掃代表取締役  
千田 信良さん



千田 信良さん

## 大崎ではじまつた復興プロジェクト

### 【菜の花フェスティバル】

### 【新聞バッグプロジェクト】



現在このプロジェクトのメインになつてるのは新聞とのりで作る新聞バッグ。高知県の四万十市が森林保全のために始めた新聞バッグの技術を教えていただき、沿岸部の方が制作しています。

震災後すぐに物資を積んで沿岸部に行きましたが、あまりの被害の大きさに、最初は自分たちに何ができるのか分からました。だから大崎にせんじた。だから大崎に二次避難されている沿岸部の方を「佐藤農場」の梅の花見にご招待して、力になれることを聞いてみたんです。そうしたらみなさん「仕事がしたい」とおっしゃっていましたんですね。そこから始まつたのが、仕事をで経済復興をする「海の手・山の手・ネットワーク」です。

海の手・山の手・ネットワーク



## 二次避難先としての大崎

東日本大震災発生後すぐに、大崎市の旅館やホテルでは沿岸部の方の二次避難受け入れを開始。その中の施設の一つ、鳴子温泉の『農民の家』では、2011年3月30日から10月31日までの7か月間で、約1万4,000人近くの方が避難生活を送りました。

『農民の家』は部屋に自炊場があるので、避難してきた方々には自炊をしていただき、基本的に日常生活と同じように過ごしてもらいうに心がけたとのこと。避難所での不自由な避難生活が続いた沿岸部のみなさんは、やつとゆっくり足をのばして安心した時間を過ごせたようです。

仮設住宅や新居で新たな生活を始めた後も、『農民の家』を利用するリピーターの方もいるとのこと。3.11でつながる縁が、ここにもありました。



提供:大崎タイムズ社

さまざまなイベントやプロジェクトを通して、沿岸部の方々との交流を続けています。



震災前は気仙沼の鹿折地区にある、かもめ通りという商店街で鮮魚店を営んでいました。しかしあの津波で店も家も全部流されてしましました。時は親戚の家に避難していましたが、大崎市への二次避難の話を聞き、5月から7月までの2ヶ月間、鬼ヶ島地区にあるホテルオコウベに、母と二人でお世話になりました。

はじめは不安でしたが、ホテルの人や地元の方にも良くしてもらつて、ゆっくり休みました。草刈りや太鼓の演奏、お神楽など、いろいろなイベントに参加したことでも良い思い出です。

実は、総に二次避難をした方々と、毎年「ホテルオコウベ」に泊まりに行こうという企画があるんです。1年目は仮設店舗で再開した鮮魚店の仕事が忙しくて私は行けませんでしたが、母が参加してとても楽しかったようです。来年以降はぜひ私も参加したいなど思っています。



南三陸  
三浦さき子さん

育ち、農漁家レストランをやっていましたが、津波で全てなくなってしまいました。本当は南三陸に残つてここが変わつてく様子をみんなと一緒に見ていたのですが、息子の夫もあり、母と入で二次避難を決めました。

最初は鳴子温泉の『鳴子ホテル』に行き、その後「農民の家」に移動。今まで2週間以上家を空けたことがなかつた私が、4ヶ月半ほど避難生活を送りました。

正直、みんながお風呂にも入れない中、自分が温泉に入つたりバイキングなどで馳走にならなくていい気持ちもあつたんです。でもホテルに着いた時、女将さんが入ひとりに丁寧に声掛けすぐだうり、鳴子温泉のみなさんがいろいろ気遣つてくださつたり…本当にありがたかったです。

だから、私にとうて鳴子温泉は第二の故郷。散歩した景色は忘れられません。今後も1年に何度も足を運びたいですね。



避難中は、毎日朝早く起きて河川敷を散歩するのが楽しみでした。だいたい1時間ほどで宿に戻り、お風呂に入る。その後一緒に避難していた方トイレや廊下の掃除を手伝うことが日課でしたね。

『高友旅館』は本当にお湯が良くて！実は震災前に家の足をケガしてしまつたんですが、帰る頃にはすっかり良くなつたんです。東鳴子にいたのは100日程度でしたが、この秋も鳴子峡の紅葉を見に行きました。来年もまた紅葉を見に、そして鳴子の方に会いに行きたいと思います。



東松島  
大友貞夫さん・昭子さん

私たちが住んでいたのは、東松島市の牛綱という所。家もなくなつてしまつたので、小学校や高校で避難生活を送った後、3月の末から6月末まで鳴子温泉の『農民の家』にお世話になりました。

鳴子温泉では、地元の方みんなが私たちのことを応援してくれたんです。下着を持って来てくれたり、欲しい野菜を聞いてくれたり…。なんて温かい人たちなんだろうって涙が出ました。

大崎のみなさんが私たちを支援してくれたおかげで、こんなに元気になれたんだと思います。本当に人と人の絆が私たちにとって宝物！ 東松島に戻つたあとで、農家の『行くぐ』と出迎えてくれるんです。だから私たちもずっと「ただいま」つて言ひながら行きたいですね。

## 鳴子温泉に二次避難をされたいた人々

### 千葉伸一さん・みよさん



私たちが女川の少し高い所に住んでいましたが、2階の押入れまで津波が来てしまつて…。高校や小学校で避難生活を送つて、4月末に東鳴子温泉の『高友旅館』に移動しました。



避難中は、毎日朝早く起きて河川敷を散歩するのが楽しみでした。だいたい1時間ほどで宿に戻り、お風呂に入る。その後一緒に避難していた方トイレや廊下の掃除を手伝うことが日課でしたね。

『高友旅館』は本当にお湯が良くて！ 実は震災前に家の足をケガしてしまつたんですが、帰る頃にはすっかり良くなつたんです。東鳴子にいたのは100日程度でしたが、この秋も鳴子峡の紅葉を見に行きました。来年もまた紅葉を見に、そして鳴子の方に会いに行きたいと思います。

## 二次避難をされたいた人々

### 千川 妃夫さん・多美子さん



私たちが女川の少し高い所に住んでいましたが、2階の押入れまで津波が来てしまつて…。高校や小学校で避難生活を送つて、4月末に東鳴子温泉の『高友旅館』に移動しました。

避難中は、毎日朝早く起きて河川敷を散歩するのが楽しみでした。だいたい1時間ほどで宿に戻り、お風呂に入る。その後一緒に避難していた方トイレや廊下の掃除を手伝うことが日課でしたね。

『高友旅館』は本当にお湯が良くて！ 実は震災前に家の足をケガしてしまつたんですが、帰る頃にはすっかり良くなつたんです。東鳴子にいたのは100日程度でしたが、この秋も鳴子峡の紅葉を見に行きました。来年もまた紅葉を見に、そして鳴子の方に会いに行きたいと思います。